

令和元年度 射水市観光振興計画推進会議 会議録

日 時：令和元年 11 月 11 日（月） 午前 10 時～12 時頃

場 所：大島分庁舎 3 階 大会議室

■あいさつ

部長あいさつ

●今年の春に内川周辺において民泊施設が誕生し、来年度には小杉駅前に約 100 室の客室を備えたスーパーホテルが完成するなど本市の課題の一つでもある宿泊施設についても少しずつ整備が進んでいる。

来年 6 月には旧新湊庁舎跡地の複合施設の供用が開始され、観光機能を備えた公共交通の結節点及び町づくりの拠点施設となるよう鋭意進めているところである。本日の委員会では、今後計画を実施していくための活発な意見交換をお願いしたい。

会長あいさつ

●今年は台風が多く襲来し、イベントが中止になるなど、観光にとって大きな打撃となったように感じる。一方で新湊地区でのリノベーション施設の完成など様々な動きがあり、少しずつだが着実に新たな動きは起こっているため、ぜひ委員の皆様には近接的な意見もいただき、より良い方向に進めていきたい。

■委員の変更について

■議事

(1) 射水市観光振興計画に係る事業の取組について（資料 1～4）

●事務局より説明

(2) 委員からの意見及び提案等について

会長：

●資料についての意見や質問を伺いたい。

委員：

●資料 4 基本戦略 I 施策 1 の 1 番、令和元年度実施事業「富山はま作」の白えびイベントにおいて、事務局からのうまくいかなかったと説明があったが、どううまくいかなかったのか。

事務局：

●今回の取組として白エビを生きのまま会場まで輸送し、生きて泳ぐ姿を見てもら

うことを一つの目標としていたが、残念ながら生きたままの輸送はうまくいかなかった。ただ通常よりも新鮮な状態だったため、来場者に自分でむいて食していただくことができ好評であった。

委員：

- 射水市に来てもらうための取組は色々実施されているかと思うが、こちらから県外に出張して実施している目立ったイベントは少ないように感じる。他に力をいれている県外 PR などはあるのか。

事務局：

- 首都圏を対象としたものでは友好協定を結んでいる荒川区での PR や名古屋での物産イベントなどに参加している。また広域連携で関西方面や東北などでも PR を実施している。

委員：

- 従来の PR では団体客を引っ張ってくることは難しいのではないか。日本橋とやま館のような立地がよく PR に効果的な場所をもっと発掘し、増やしていくべきである。

副会長：

- 委員の意見にあったように外に足を運んで PR することも重要だが、市内から情報発信することも大切だと感じる。
射水ケーブルでは今年も Youtube で新湊曳山まつりをライブ中継した。閲覧は 7,600View（昨年が 6,000 ほど）となり、国外ではドイツ、タイ、中国、韓国、台湾の方も閲覧いただき、SNS を利用して情報を配信することが当たり前となっている。インスタグラマーなど力を持っている方に配信してもらうことも大切である。現在、未来創造課で取り組んでいる V チューバーを使った動画配信も有効だと感じる。また、来年共用が開始される複合施設を e スポーツの拠点とできないか。茨城では国体種目にもなり富山県知事も非常に力を入れている。そのこともあり複合施設にはローカル 5G の導入も検討している。直接観光とは関係ないかもしれないが、新たに人を集めることができる場所として活用できるかが重要かと思う。

会長：

- 今ほど話のあった情報発信に関して他の意見はあるか。
資料 4 基本戦略 I 施策 1 の 8 番に射水市観光協会主体で実施している学生の SNS の発信事業があるが、どのくらいの頻度で配信しているのか。

委員：

- 昨年から学生に協力いただき、昨年から射水市内の観光地などを実際に訪問、体験し SNS で配信している。ただ配信するだけではなく、どのような効果があったかの調査や次回にどう生かすかまで考えてもらっている。

会長：

- イベントの場合はその実施日だけ配信しているのか。

委員：

- 当日だけである。

会長：

- イベントの場合は少し前から配信を進めた方が良いかと思う。ゼミ生が滑川市の竜宮まつりに携わっており、2週間ほど前から少しずつ情報を発信したところ注目を集めることができた。当日配信も重要ではあるが、興味を持った時にはすでにイベントが終了していることもありえるのもったいない。また先日プライベートで黒部峡谷鉄道に乗車し、インスタグラムで内容を投稿したところ、次の駅に着くまでの短時間で公式アカウントから「いいね」の通知があった。即座に投稿に気づき反応するのは難しいがユーザーからすると非常にうれしく感じる。そういったことも効果があるかもしれない。

副会長：

- 提案ではあるが、現在新湊漁港が中心となり、射水市の小学6年生に向けたカニ給食を実施しているかと思う。地元でも毎年取り上げられ写真の見栄えも良いことから、県外でも実施するのはどうか。例えば小杉地区の金山小学校は渋谷区の猿楽小学校と疎開の縁から交流を続けている。あまり生徒数も多くはないが、カニを提供すれば首都圏のメディアに大きく取り上げてもらえると感じる。

委員：

- 基本戦略 I 施策 1 の 5 番に記載のある農業産業まつりについて年々盛り上がりなくなっていると感じる。射水市の農業と産業のまつりであるため、出展者が増える環境をつくる努力が必要ではないか。もちろん祭りの実施に関して協議しているかと思うが、県外の農産物の出店が全体の 7 割を占めているのは違和感を感じる。また今年は早い段階でお客さんが少なくなり、ステージイベントに人が集まっていなかったようにも感じた。イベント期間が 1 日減ったのもその要因ではないかと思う。射水の農産物等を知ってもらうための重要なイベントであるため、実施の仕方により工夫が必要である。

事務局：

- 今年のまつりは天候も良く、お客さんが朝から多く集まったと感じていた。ただ

その多くは早めに買い物を済ませ、外で振舞われた食品ブースに並んでしまったことから、場内のお客さんが少ない要因の一つになったと思われる。また1日開催となったことから出展者も1日で販売できる商品を用意しており、昼過ぎには閑散としていたかもしれない。

市としても問題視しているが、射水市の農地は水稻が中心であり、海拔の高くない場所で農業をしていることから、農業産業まつりについても射水市内の農産物を十分に集めることが難しい現状にある。そういったことも踏まえて、今後色々と検討させていただきたい。

委員：

- 9月に台湾旅行者に向けてPRを行い、ベニズワイガニをレストランで賞味いただいた。士林区とも提携を結んでいることから行政も参加し、ぜひPRを一緒に行っていきたい。台湾の方はカニだけでなくブリや白えびも好んでいる。大阪では受け入れが間に合わないほど外国人旅行客が増えている。今後関西空港からの交通も整備されるようなので観光客を逃さないようにしたい。

委員：

- 射水市の強みは山の幸と海の幸両方が備わっていることである。今年度新湊カニかに海鮮白えびまつりが中止となり非常に残念であった。水産物はすでにブランディングに成功し、まつりがなくても事業者への負担が強まることはないが、射水市全体で考えると農業産業まつりと海鮮まつりを別でやっていること自体が損ではないか。台湾にPRを実施するときにも一緒に実施できないのがもったいなく感じる。例えば海鮮まつりで売れなかったカニを農業産業まつりで販売するなど連携を行えばよかったのではないか。

会長：

- 富山県は野菜や果物の生産量が非常に少ない(都道府県でも最下位に近い)ため、量を集めることが困難である。委員の提案にあるように一緒に実施するのは良い案かもしれない。それ以外の特産物(お菓子など)も併せて販売できれば良い。観光客は地元の物を購入したいとしっかり確認していることも多い。

オブザーバー：

- 新湊と小杉の交通の整備など事業内容が少しずつ良くなってきていると感じる。いくつか意見と質問をさせていただきたい。
一つ目に内川は道が整備され休憩所なども増えているように感じるが、一部窓が割れている住居などが見られ、景観に影響するのではないか。
二つ目は水産試験場付近の防波堤は週末多くの釣り人がいたが、昨年ごろから危険防止のため、封鎖されてしまった。ベイエリアをキラコンテンツ化するにあ

たり、以前釣り堀を作るのも良いと提案したが、他に釣りをする場所はあるのか。三つ目はクルーズ船の誘致について、以前大きなクルーズ船が海王岸壁に入るためにはある程度の水深が必要で、その条件を満たしていないために伏木港へ入港していると聞いているが事実なのか。

四つ目は物語性のあるお土産品の開発についてである。今年8月に市が開催したものづくりの相談会があったが、その中で全く違う業種の方でグループを組み面白い商品を作っていた。射水市でもそのような会を開くのが良いのではないか。五つ目はキラコンテンツ化についてだが、とある大企業ではひきこもりと呼ばれている若者に関して平日は田舎で漁業や林業などに従事し、週末は自宅に帰るビジネスモデルを聞かされたことがあった。新湊地区だと漁業になるかと思うが、そういったビジネスも利用できるかもしれない。また以前に飛騨市では都会で自分たちが制作した木工製品を売り込み、ぜひ製造の現場を見てほしいとツアー誘致する例があり、面白いと感じた。

事務局：

●今の内容について少しご説明したい。

一つ目の内川の景観については、現在計画を策定しており、それを中心に実施していく予定である。

また二つ目の釣りに関して、東防波堤ではこれまで何件か死亡事故も発生したことから、封鎖されているが、市としても釣りという観点で人を呼び込むことは重要と考えており、現在市内に4か所ある釣り場を有効に活用できないか考えていきたい。

三つ目のクルーズ船の誘致について、海王岸壁は水深7.5mと深くなく、長さも短いため入港できる船（約3万トン級の船）は限られている。毎年県に岸壁の整備を要望するとともに受入が可能な外国船の誘致に尽力している。

またお土産品の開発に関して資源は十分あるものにとらえ、開発のための補助金もあることから周知を進めていきたい。

最後にひきこもりに関するビジネスプランについては本市においてもひきこもりを減らすことは重要でありひきこもり対策の観点から、担当課とも協議していきたい。

委員：

●要望でもあるが、小杉駅前にホテルができることから観光案内所と物産販売ができる場所が必要と感じる。受入を増やすことができても案内所がなければ発展にはつながらない。また基本戦略Ⅱ施策1の6番に記載のある下条川までの船の運航について、季節限定でも良いのでまずはルートを作り、新湊と小杉をつなげる（巡回させる）ことが重要である。

さらに新湊にフットボール施設（スポーツ公園）が竣工されると聞いているが、

このスポーツ公園を観光にも生かすべきではないか。試合など人が集まる場となり、物産などの仕組みを整えれば、多くの人を呼び込むことができるためしっかりと検討していただきたい。

事務局：

- 小杉駅の観光案内所については小杉駅周辺地区基本構想を立ち上げており、港湾・観光課としても地方創生交付金を活用した事業の一環で部会をつくり案内所について検討していきたい。
下条川遊覧船についても内川で観光船は好評をいただいていることから季節限定でも実現したいと考えているが、課題もあるため、慎重に進めていきたい。
フットボールセンターについても生涯学習・スポーツ課を中心に進めているため、人を呼び込むことも考えながら完成を目指していきたい。

委員：

- 今年度からあいの風とやま鉄道で観光列車を運行し、第2便は小杉駅に10分ほど停車しているが、その間駅に展示されている鍔絵の説明などを行なっている。今年5月には市と協力して獅子舞演舞も実施した。観光列車はお土産付きで1万5千円と高額なことから観光に興味のある方の乗車が多く、車内で市町村の特産物の販売などPRもできるのでお声かけしてほしい。ちなみに小杉駅の南口についても今年から直営しており、当社路線をよく知っている職員が直接お客さまに案内などを行っている。

会長：

- 確かに小杉にホテルができて、案内所がなければ市外に行ってしまうことになるため、いかに誘致するかが大切である。
また最近ではブリッジバーなど新湊地区で遅くまで飲めるお店ができたが、公共交通を使用する場合、富山方面は非常に不便である。城端の方ではあまり乗車していないが遅くまでバスが運行しており、飲酒しても帰宅しやすい。そういった使い勝手の良い公共交通があると良い。

委員：

- 会長の話にもあったが、小杉駅と新湊地区をいかに効率よく結ぶのが重要になる。現在コミュニティバスが走っているが複雑で早い時間で運行が終了しているため、よりわかりやすいものとしてほしい。地元の人だけでなく市外のお客さんも利用できるようにしてほしい。

委員：

- プロダクトアウトではなくマーケットインの考え方が重要である。観光客が何を求めているかを考えなくてはいけない。計画には認知度、魅力度向上と記載はあ

るが外貨を稼ぐことが観光であり、文化なども重要であるがお金が落ちる仕組み突き詰めていけたら良い。

委員：

- 会長から二次交通について話があったが、実は夜間県営渡船の代わりに予約制のタクシーを運行している。ただ認知は進んでいないため利用者が少なく、これをうまく活用できれば良いのではないか。また富山～新湊間を結ぶぶりにバスも運行しているが、本数も限定されている。射水市のバス停の数を減らし、細かな市内の移動は市内事業者で行うことも可能ではないか考えている。ただ個人事業者だけでは利害関係もあり、実行に移せないため市内だけでなく県内全体など大きな枠で交通部会のようなものを立ち上げてもらえればもっと射水市の利点になると思われる。

会長：

- それでは、オブザーバーより意見いただきたく思います。

オブザーバー：

- 活発な意見交換となったかと思います。先ほど意見を述べたが、総評すると交通面も含め少しずつ進歩しているが、あともう一步踏み出してほしいと委員も実感しているかと思う。また検討をお願いしたい。

オブザーバー：

- 先ほどのお話の中でお金につながることや団体を連れてくることの困難さについて意見があったかと思う。県内で飲食店を営んでいる知人がいるが、特段こちらからPRはしていないのに外国人観光客が多く来店すると疑問を持っていた。この理由はグーグルで検索すると上位に表示されるためである。外国人に限らず旅行者は個人化が進んでおり、昔とは傾向が異なっている。例えば東京から富山に旅行に訪れた外国人観光客が、悪天候でアルペンルートのバスが運行しないと聞くと、一度東京に帰り翌日に再度訪れたという例を聞いたことがある。これは新幹線フリーパスを取得していることもあるが、日本人では考えられない動きである。このような動きも知ったうえで観光にも工夫が必要である。グーグルで地名や食材を検索すると、たくさんの情報が表示されるが、これは各店舗で自由に掲載することができる。(自動で翻訳もしてくれる)しかしながら、その店舗のオーナーでない別の誰かが口コミや写真を掲載していることもあり、多くの目に触れる機会だが不確定な情報が掲載され非常に残念である。場合によってはお店のHPよりもグーグルの非公式の口コミを見てしまい、ユーザーが混乱することもありえる。こういった取組が個々の店舗のPRに有効であるため、本日お越しの皆様の前でもオーナー登録をしていない店舗に周知いただきたい。

副会長閉会あいさつ

副会長：

●貴重なご意見交換の場となった。

10月半ばから新湊地区にオックスフォード大学の学生が研究成果発表のために1年間定住し始めたが、内川を研究しWEB上で情報を発信する予定になっている。

先ほどからも議論にあがっているが、来年には旧新湊庁舎跡地に複合交流施設ができ、射水市としても大きなきっかけとなる。今後すべての事業に関して突破力が必要になると感じる。小杉駅周辺から新湊地区への人の輸送や市内全体への波及など課題はあるが我々と行政も一体となって有意義なものとなるようにしたい。

会議終了